

令和元年度
文部科学省
特別支援教育に関する実践研究充実事業

令和元年度
研究紀要

研究主題

地域・人との関わりを通して学ぶ楽しさ
伝え合う喜びを育む授業づくり
(二年次)

2020年2月
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

ごあいさつ

私たちは、ICF（国際生活機能分類）の理念を教育に活かす実践研究、その後のキャリア教育研究で得た成果を元に、昨年度から文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」（次期学習指導要領に向けた実践研究）を受託して、3年間の計画で「地域や人との関わりを通して、学ぶ楽しさ、伝え合う喜びを育む授業づくり」というテーマで実践研究に取り組んでいます。

これまでの実践研究の繋がりの中で、児童生徒の興味・関心や強みに着目し、それらを授業に活かすと共に、学習活動で見られる児童生徒の姿を、児童生徒の行動の背景や内面の見取りも含め児童生徒を全体的に捉えることで学習評価を行ってきました。また、児童生徒の育ちと学びのプロセスにも視点を置き、時間軸の中で児童生徒を捉えようとしてきました。

さらに、協働という視点を学習活動の中で重視し、児童生徒同士はもちろん異年齢の子供や高齢者、地域住民との協働活動を教育課程に位置付けて積極的に取り組んできています。

これらのことを踏まえて上記の研究テーマを設定し、新しい学習指導要領による教育が小学部にて全面実施される今、児童生徒がこれからの時代に必要とされる資質能力を確かに身に付けることができるよう教育課程や授業、その評価の検討・改善を試みています。

今年度も昨年度に引き続き、合わせた指導や総合的な学習の時間を取り上げ、地域や他の関係機関との協働活動を中心としたテーマで、学習指導案の形式の変更、各教科及び指導形態に応じた授業構想のための「教科等特徴シート」、授業実施後の振り返りシートとしての「授業アセスメントシート」の修正を行い、授業研究に取り組みました。また、評価についてもこれまでのビデオ分析や教員による協議に加え、パフォーマンス評価を新たに行いました。

取組は十分とは言えませんが、地域に開かれた教育課程への改善や必要とされる資質・能力の育成に向けた授業改善が進み、学校と地域住民との交流が進むと共に、児童生徒が他者に関心を持ち、その関わりを喜んだり、他者への気遣いを示したりと学校の在り方や児童生徒の変化も見られるようになってきたところです。

教育研究会にご参加の皆様ならびに本研究紀要をご高覧の皆様には、ぜひ忌憚のないご指導、ご助言をいただき、次年度の実践研究最終年に向けて、一層本研究の取組を深化させて参りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、研究授業の際にご指導いただいた、関西学院大学教授の菅原伸康先生、金城大学教授の佐伯英明先生はじめ、学校研究協力者の皆様、児童生徒と共に活動していただいた地域、関係機関の皆様に謹んでお礼申し上げます。

校長 山本 仁